

「文化創成コーディネーター育成」に関する研究会開催報告

(2013年12月7日(土)15:30-17:30、法政大学市ヶ谷キャンパス富士見坂校舎3階F307教室にて)

この度、科研費助成研究「文化創成コーディネーター育成のためのカリキュラム開発に関する研究」に取り組んでいるメンバーを中心とし、「日本国際文化学会研究会」としての勉強会を開催した。

今回は、特別にゲストスピーカーとして、類似のコーディネーター育成事業等に精力的に取り組んでおられる内閣官房（慶應義塾大学システムデザイン・マネジメント研究所においても教鞭を執っておられる）の早田吉伸氏にご参加いただき、「社会で求められているコーディネーター像」と「既存の大学教育の中で実施できるカリキュラム」との間のギャップを浮き彫りにしつつ、両者を滑らかに結ぶ漸近線としての有効な教育カリキュラム構築の可能性を探ることに重点を置いた。

前半は、研究グループメンバー5名（木原誠、高橋良輔（佐賀大学）、岩野雅子、斉藤理（山口県立大学）、小笠原伸（白鷗大学））による発表を順に行い、これまでの成果を中心に、教育サイドの視点から挙げられる人材育成の展望と課題点等が指摘された。

続く後半において、早田吉伸氏による「地域振興と、必要とされる人材育成」と題する講演を伺い、その後、研究メンバーを交えてディスカッションを行ったが、ここで展開された早田氏の提起はきわめて革新的でありながら、社会課題にぴたりと適合した現実的な人材育成モデルであり、文化創成コーディネーターの育成カリキュラムを模索する上で示唆に富む内容であった。

具体的には、今日の社会的変動の特質を、具体的データを基に整理しつつ、今後、「社会課題を解決すると同時に、新しい価値を創出していくことのできる人材」が求められていると指摘、また米国のカリキュラムを参考にしたという新しい人材育成プログラムについても紹介された。

キーワードは、社会的課題に「ホリスティック（包括的）なアプローチ」で向き合うという点で、続くディスカッションにおいては、大学のプラットフォーム機能を活用しつつ、そうした教育アプローチが可能か、について重点的に意見が交わされた。

本研究会の成果は、国際文化学会にて検討されている文化創成コーディネーター資格認定制度の創設に際し資するものとなるほか、今後継続して展開される科研費助成研究においてこのテーマを発展的に深めていく素地を成すものと期待される。

最後に、研究会会場の御手配をいただいた法政大学熊田泰章先生に御礼申し上げたい。

(斉藤理)